

長野県における 2015/16 シーズンのインフルエンザの流行状況及びウイルス検索結果について

長野県健康福祉部保健・疾病対策課
 長野県環境保全研究所感染症部
 長野市保健所環境衛生試験所

1. インフルエンザ定点あたり患者数の推移

長野県感染症発生動向調査より、週別定点あたりインフルエンザ患者数および環境保全研究所、長野市保健所環境衛生試験所（以下、「環保研等」という。）におけるインフルエンザウイルス検出数を図 1 に示した。

定点あたりの患者数は、2016 年第 1 週（1 月 4 日～10 日）に 1.89 人と流行の目安である 1 人／定点を超え、流行のピークは第 9 週（2 月 29 日～3 月 6 日）の 43.76 人であった。

その後、徐々に減少し、第 19 週（5 月 9 日～15 日）には 0.83 人と定点あたり 1 人を下回った。

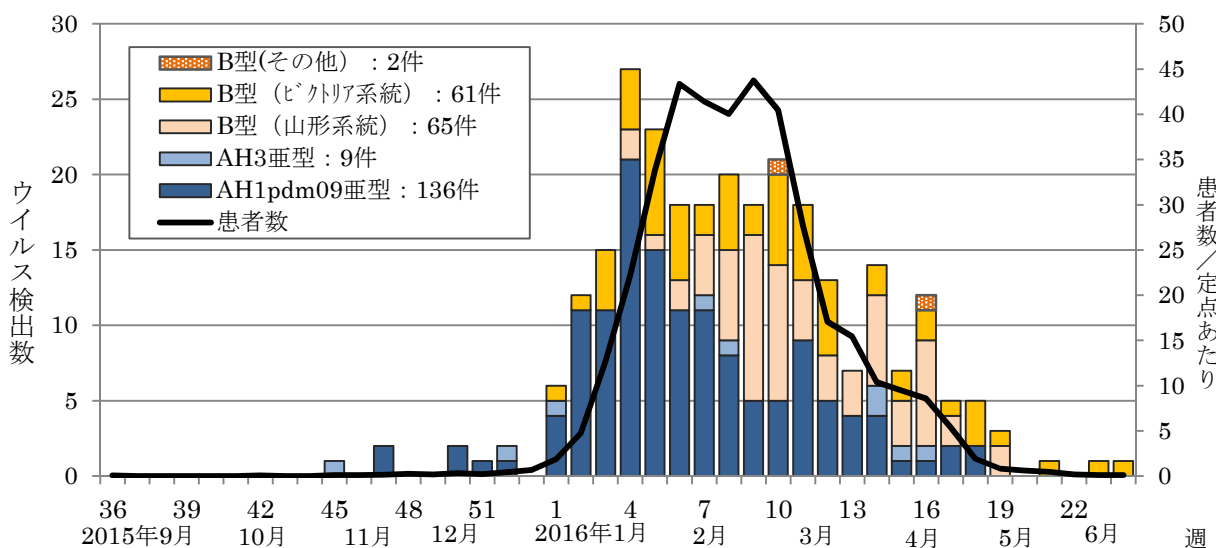


図 1 長野県における 2015/16 シーズン患者数及びウイルス検出状況

2. インフルエンザウイルス検索結果

(1) 感染症発生動向調査事業

2015 年 10 月～2016 年 6 月の間に、感染症発生動向調査事業の病原体定点（医療機関）で採取され、環保研等に搬入されたインフルエンザ患者の検体は 278 検体であった。

これらの検体について、分離培養または遺伝子検査によってインフルエンザウイルスの検出を試みたところ、273 検体から検出され、検出率は 98.2%であった。

検出されたウイルス株の内訳は、A 型では AH1pdm09 亜型が 136 株(48.9%)と全体の約半数を占

め、AH3 亜型(いわゆる A 香港型)が 9 株(3.2%)であった。また B 型は 128 株で、このうち山形系統が 65 株(23.4%)、ビクトリア系統が 61 株(21.9%)であった (表 1)。

A 型の経時的検出状況は、AH1pdm09 亜型が第 47 週 (2015 年 11 月 16 日～22 日) に検出されて以降徐々に増加し始め、2016 年第 2 週から第 8 週 (2016 年 1 月 11 日～2 月 28 日) にかけて最も多

く検出された。なお、昨シーズンは流行の中心であった AH3 亜型は、シーズンを通して散発的に検出された。

B 型については、第 1 週 (2016 年 1 月 4 日～8 日) に検出されて以降増加し、第 8 週 (2016 年 2 月 29 日～3 月 6 日) に AH1pdm09 亜型の検出数を上回り、それ以降 B 型が流行の中心となっており、6 月に入っても散発的に検出された。

なお、例年 B 型は、山形系統及びビクトリア系統のどちらかが優位に検出される傾向がみられるが、今シーズンは、両系統がほぼ同じ割合で検出された。

表1 ウイルス検索結果

亜型	検出数	亜型検出割合(%)
AH1pdm09 亜型	136	48.9
AH3 亜型	9	3.2
B 型 (山形系統)	65	23.4
B 型 (ビクトリア系統)	61	21.9
B 型 (型別不能)	1	0.4
B 型 (山形系統及びビクトリア系統)	1	0.4
不検出	5	1.8
合計	278	-

(2) 集団かぜ患者発生状況

2015 年 8 月 31 日から 2016 年 5 月 16 日までの保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校におけるインフルエンザ様疾患による学級閉鎖は 1,014 施設で、閉鎖直前の患者数は 10,884 人、うち欠席者数は 10,331 人であった。

このうち、施設側の協力を得て 11 施設 30 検体についてウイルス検査を実施したところ、11 事例 27 検体からインフルエンザウイルスが検出され、AH1pdm09 亜型が 9 事例 20 検体、AH3 亜型が 1 事例 5 検体、B 型 (山形系統) が 1 事例 2 検体であった。

3. 抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランスについて

国立感染症研究所 (以下「感染研」という。) では、全国の地方衛生研究所と共同で、オセルタミビル (商品名タミフル)、ザナミビル (商品名リレンザ)、ペラミビル (商品名ラピアクタ) およびラニナミビル (商品名イナビル) に対する薬剤耐性株サーベイランス¹⁾ を実施している。

環境研等でもこのサーベイランスに参加しており、分離した AH1pdm09 亜型の流行株から無作為に抽出した 75 株について、TaqMan RT-PCR 法により、オセルタミビル耐性株に特徴的な H275Y 耐性マーカー検査を実施したが、H275Y 耐性株は検出されなかった。

また、環境研等で分離し、感染研に分与した 2015/16 シーズンの流行株である AH1pdm09 亜型 10 株、AH3 亜型 2 株、B 型 (山形系統) 1 株、B 型 (ビクトリア系統) 2 株について、感染研においてオセルタミビル、ザナミビル、ペラミビルおよびラニナミビルに対する薬剤感受性試験を行った結果は、全ての薬剤に対して感受性を保持していた。

なお、全国では (平成 28 年 7 月 1 日現在)、AH1pdm09 亜型 2,383 株、AH3 亜型 116 株、B 型 267 株について調査が行われており、AH1pdm09 亜型のオセルタミビル、ザナミビルに対して耐性を示した株が 45 株 (1.9%) 確認されたが、AH3 亜型及び B 型については確認されていない。

4. 入院サーベイランスについて

県内の11基幹定点から、263人（1定点あたり23.9人）の報告があった。年齢階級別の推移を図2に示す。0～14歳が94人（35.7%）、15～59歳が28人（10.6%）、60歳以上が141人（53.6%）であり、約半数が60歳以上であった。

第39週（2015年9月21日～27日）に2人の報告があつて以降、散発的に発生し、第4週（2016年1月25日～31日）に急激に増加した。ピークは第6週（2016年2月8日～14日）の37人であった。その後、徐々に減少し、第20週（2016年5月16日～22日）の1人が最後の報告であった。

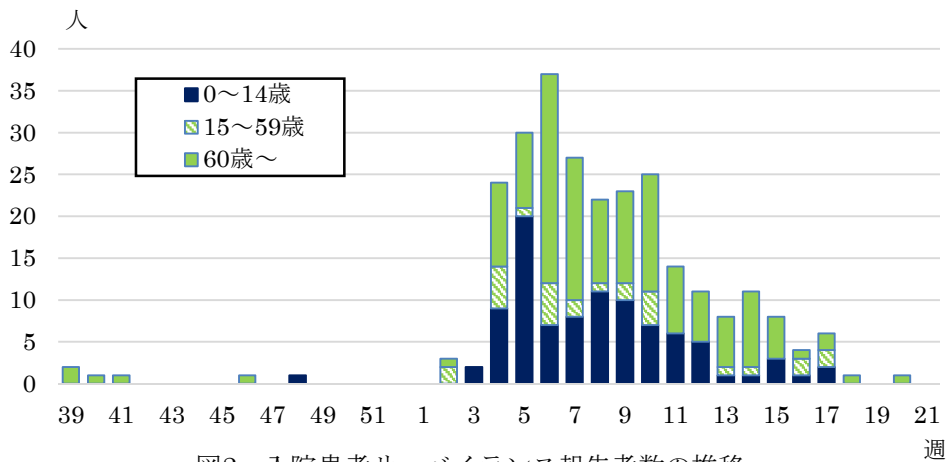


図2 入院患者サーベイランス報告者数の推移

引用文献

- 1) 国立感染症研究所ホームページ, 抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランス

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/influ-resist.html>